

参考文献

- ・ 明石純「医療組織における理念経営主導型経営」『経営科学』第 38 巻第 4 号、組織学会 (2005)、pp.22-31
- ・ 秋山美紀『地域医療におけるコミュニケーションと情報技術 医療現場エンパワーメントの視点から』慶應義塾大学出版会(2008)
- ・ 浅井怜衣「リーダーとフォロワーの関係性を考慮した組織メンバーの仕事に対する満足度とモチベーション」『愛知淑徳大学論集-ビジネス学部・ビジネス研究科篇-』第 13 号、愛知淑徳大学 (2017)、pp.1-19
- ・ 東俊之「変革型リーダーシップ論の問題点-新たな組織変革行動論へ向けて-」『京都マネジメント・レビュー』第 8 号、京都産業大学マネジメント研究会 (2005)、pp.124-144
- ・ 猪飼周平「地域包括ケアの社会理論への課題 健康概念の転換期におけるヘルスケア政策」『社会政策』第 2 巻第 3 号、社会政策学会 (2011)、pp.21-38
- ・ 池上直己『日本の医療と介護 歴史と構造、そして改革の方向性』日本経済新聞出版社 (2017)
- ・ 石井京子「レジリエンスの定義と研究動向」『看護研究』第 42 巻第 1 号、医学書院 (2009)、pp.3-14
- ・ 石井京子「レジリエンス研究の展望」『日本保健医療行動科学学会年報』第 26 巻、日本保健医療行動科学学会(2011)、pp.179-186
- ・ 石毛みどり、無藤隆「中学生における精神的健康とレジリエンスおよびソーシャル・サポートとの関連-受験期の学業場面に着目して-」『教育心理学研究』第 53 巻第 3 号、日本教育心理学会 (2005)、pp.356-367
- ・ 石田路子「これからの東アジア諸国における高齢者ケアについて-日本における高齢者ケアシステムの先行事例を参考に-」『城西国際大学福祉紀要』第 22 巻第 3 号、城西国際大学 (2014)、pp.17-40
- ・ 石田路子「自治体における地域包括ケアシステムの構築-「自助」・「互助」に関する位置付け

と今後の方向性-」『城西国際大学福祉紀要』第 23 巻第 3 号、城西国際大学(2015)、pp.1-24

- ・ 市川佳居「レジリエンスとは」松井知子、市川佳居編『職場ではぐくむレジリエンス 働き方を変える 15 のポイント』金剛出版(2019)、pp.9-29
- ・ 一財団法人健康・生きがい開発財団「生涯現役社会の実現に向けた地域包括ケアプラットフォーム構築に関する調査研究事業報告書」厚生労働省、平成 25 年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)(2013)
- ・ 一般財団法人健康・生きがい開発財団「地域包括ケア実現に向けサービス提供の現場が抱える課題とその対応策のあり方に関する調査研究事業報告」厚生労働省、平成 26 年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業)(2015)、pp.10-16
- ・ 伊藤哲司「書評特集:レジリエンス 『心』の問題にとどまらないレジリエンス概念の広がり」『質的心理学研究』第 17 号、日本質的心理学会(2018)、pp.229-230
- ・ 稲葉昭英「ソーシャル・サポートの理論モデル」松井豊、浦光博編『人を支える心の科学』誠信書房(1998)、pp.151-175
- ・ 稲葉昭英、浦光博、南隆男、「ソーシャル・サポート研究-研究の新しい流れと将来の展望-」『社会心理学研究』第 4 号、日本社会心理学会(1989)、pp.109-149
- ・ 稲葉昭英、浦光博、南隆男「『ソーシャル・サポート』研究の現状と課題」『三田哲學會』第 85 号、慶應義塾大学三田哲学会(1987)、pp.109-149
- ・ 井原裕、尾形広行、犬塚彩「総合病院における医療従事者のメンタルヘルスとレジリエンス(逆境からの回復力)第2報」『2010 年度研究助成報告集』第 22 号、財団法人メンタルヘルス岡本記念財団(2010)、pp.15-21
- ・ 井原裕、尾形広行、犬塚彩、多田則子、永井敏郎、水野基樹「看護師レジリエンス尺度の開発と心理計測学的検討」『総合病院精神医学』第 22 巻 3 号、日本総合病院精神医学会(2010)、pp.210-220
- ・ 上田和勇「企業経営にみるレジリエンス」奈良由美子、稲村哲也『レジリエンスの諸相-人類史

的視点からの挑戦-』放送大学教育振興会(2018)、pp.257-276

- ・ 上原尚紘、志渡晃一、三宅浩次「医療福祉職における燃え尽き症候群と関連要因」『北海道医療大学看護福祉学部学会誌』第 14 巻1号、北海道医療大学(2018)、pp.79-84
- ・ 宇佐見耕一、小谷眞男、後藤玲子、原島博編集代表『世界の福祉年鑑 2016 第 16 集』旬報社(2016)
- ・ 浦光博『支え合う人と人-ソーシャル・サポートの社会心理学-』サイエンス社(1992)
- ・ 王文亮編著『現代中国の社会と福祉』ミネルヴァ書房(2008)
- ・ 尾形広行、井原裕、犬塚彩、多田則子、水野基樹「総合病院における看護師レジリエンス 尺度の作成および信頼性・妥当性の検討」『精神医学』第 52 巻第 8 号、医学書院(2010)、pp.785-792
- ・ 小塩真司、中谷素之、金子一史、長峰伸治「ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性 精神的回復力尺度の作成」『カウンセリング研究』第 35 号、日本カウンセリング学会(2002)、pp.57-65
- ・ 小花和 Wright 尚子「幼児期の心理的ストレスとレジリエンス」『日本生理人類学会誌』第 7 巻第 1 号、日本生理人類学会(2002)、pp.25-32
- ・ 大中忠夫監修、グロービス・マネジメント・インスティテュート編『MBA リーダーシップ』ダイヤモンド社(2006)
- ・ 貝川直子「学校組織特性とソーシャルサポートが教師バーンアウトに与える影響」『パーソナリティ研究』第 17 巻第3号、日本パーソナリティ心理学会(2009)、pp.270-279
- ・ 介護労働安定センター「-平成 28 年度介護労働実態調査(特別調査)について-~介護労働者のストレスに関する調査~」介護労働安定センター(2005)
- ・ 郭芳『中国農村地域における高齢者福祉サービス-小規模多機能ケアの構築に向けて-』明石書房(2014)
- ・ 郭莉莉『日中の少子高齢化と福祉レジーム-育児支援と高齢者扶養・介護-』北海道大学出版会(2017)

- ・ 片受靖、庄司一子「ソーシャルサポートにおける欲求及び実行と満足感との関係-ある製造メーカー従業員を対象として-」『産業カウンセリング研究』第6巻第1号、日本産業カウンセリング学会(2003)、pp.1-10
- ・ 片受靖、大貫尚子「大学生用ソーシャルサポート尺度の作成と信頼性・妥当性の検討-評価的サポートを含む多因子構造の観点から-」『立正大学心理学研究年報』第5号、立正大学心理学部(2014)、pp.37-46
- ・ 片受靖『勤労者のソーシャルサポートと精神的健康に関する研究』風間書房(2018)
- ・ 加藤正明編「平成11年度『作業関連疾患の予防に関する研究』労働の場におけるストレス及びその健康影響に関する報告書」労働省(厚生労働省)(2000)
- ・ 金井壽宏、守島基博「斬成説からみた早期よりのリーダーシップ発達-教育・人事制度への含意-」『組織科学』第43号第2号、組織学会(2009)、pp.51-64
- ・ 株式会社日本総合研究所「事例を通じてわが町の地域包括ケアを考えよう『地域包括ケアシステム』事例集成～できること探しの素材集～」平成25年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業 地域包括ケアの構築に係る自治体の取組状況の整理・分析に関する調査事業報告書、株式会社日本総合研究所(2014)
- ・ 川越雅弘「我が国における地域包括ケアシステムの現状と課題」『海外社会保障研究』第162号、国立社会保障・人口問題研究所(2006)、pp.4-15
- ・ 神野正博インタビュー「地域医療づくりのカギは、『アライアンス』(同盟)と『統合』」『TKC 全国会 医業・会計システム研究会』2018年8月31日記事
https://www.tkc.jp/igyoku/manage_support/manage_labor_legal/201610 2019年2月2日アクセス
- ・ 神野正博「これからの地域包括ケアシステムを考える」『恵寿総合病院医学雑誌』第3巻、恵寿総合病院(2015)、pp.1-7
- ・ 神野正博「未来の病院をデザインする全10回シリーズ」『病院新聞』病院新聞社 2018年11月29日(2535号)～2019年2月21日(2544号)

- ・ 神野正博「統合戦略の基づくけいじゅヘルスケアシステム」『病院』第 76 巻第 3 号、医学書院 (2017)、pp.200-205
- ・ 神野正博「働き方～Resilience (回復) のための Confidence, Social Support, Adaptability, Purpose funding」神野正博ブログ『神野正博のよもやま話』2019 年 5 月 21 日記事、
<https://keijumed.exblog.jp/29432846/> 2019 年 5 月 21 日アクセス
- ・ 北島佳苗「地域包括ケアシステムと諸研究と概念化」『日本経営品質学会誌オンライン』第 7 巻 1 号 (2018) 日本経営品質学会オンラインへの研究ノート受理、2018 年 8 月 31 日承認。
オンラインジャーナルの掲載は近日予定。
- ・ 久保真人「ストレスとバーンアウトの関係-バーンアウトはストレンか?-」『産業・組織心理学研究』第 12 号、産業・心理学会 (1998)、pp.5-15
- ・ 久保真人「ヒューマン・サービス従事者におけるバーンアウトとソーシャル・サポートとの関係」『大阪教育大学紀要』第 VI 部門第 48 巻第 1 号、大阪教育大学 (1999)、pp.139-147
- ・ 久保真人『バーンアウトの心理学』サイエンス社 (2004)
- ・ 久保真人「バーンアウト (燃え尽き症候群) -ヒューマンサービス職のストレス」『日本労働研究雑誌』第 558 号、労働政策研究・研修機構 (2007)、pp.54-64
- ・ 経協インフラ戦略会議「第 37 回経協インフラ戦略会議 主要産業・重要分野の海外展開戦略 (医療)」(2018) https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keikyoku/pdf/180607iryoku_honbun.pdf
2019 年 5 月 11 日アクセス
- ・ 厚生労働省「医療・介護を取り巻く現状 (参考資料) 資料 1-2」社会保障改革に関する集中検討会議 (第 7 回)、2011 年 5 月 19 日開催 (2011)
- ・ 厚生労働省「施設・居住系サービスについて 資料 4-2」第 100 回社会保障審議会-介護給付費分科会、2014 年 4 月 28 日開催 (2014)
- ・ 厚生労働省「第 4 回医療法人の事業展開等に関する検討会」医療法人の事業展開に関する検討会、2014 年 4 月 2 日開催 (2014)
- ・ 厚生労働省『平成 28 年度版 厚生労働白書-人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える

一』日経印刷株式会社(2016)

- ・ 厚生労働省ホームページ「地域医療連携推進法人制度の概要」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177753.html> 2019年9月5日アクセス
- ・ 厚生労働省ホームページ「地域包括ケアシステム」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ 2019年5月9日アクセス
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(全国推計)2013(平成25)年1月推計』人口問題研究所資料第329号(2013)
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集』人口問題研究所資料第338号、国立社会保障・人口問題研究所(2018)
- ・ 小林甲一、市川勝「地域法ケアシステムの理念と仕組み-公立みつぎ総合病院を訪ねて-」『名古屋学院大学論集』第52巻第2号、名古屋学院大学(2015)、pp.89-107
- ・ 小牧一裕・田中國夫「職場におけるソーシャルサポートの効果」『関西学院大学社会学部紀要』第67号、関西学院大学社会学部研究会(1993)、pp.57-67
- ・ 小牧一裕「職務ストレスとメンタルヘルスへのソーシャルサポートの効果」『健康心理学研究』第7巻第2号、日本健康心理学会(1994、)pp.2-10
- ・ 齋藤和貴、岡安孝弘「最近のレジリエンス研究の動向と課題」『明治大学心理社会学研究』第4号、明治大学心理社会学科(2009)、pp.72-84
- ・ 酒井淳子「看護師の心理的 well-being に対する職場におけるソーシャルサポートの効果-共分散構造分析を用いた検討-」『日本看護科学雑誌』第26巻第3号、日本看護科学学会(2006)、pp.32-40
- ・ サービス産業生産性協議会ホームページ「リーダーの声」https://www.service-js.jp/modules/contents/?ACTION=content&content_id=1099 2019年1月25日アクセス
- ・ 社会医療法人董仙会、社会福祉法人徳充会『けいじゅヘルスケアシステム業績集(2017)』

(2018) http://www.keiju.co.jp/about/results_detail.html?id=7 2019年2月2日アクセス

- ・ 社会医療法人董仙会恵寿総合病院訪問時配布資料、2018年8月29日訪問
- ・ 社会医療法人董仙会『恵寿総合病院ホームページ』<http://www.keiju.co.jp/> 2019年2月2日アクセス
- ・ 社会保障制度改革国民会議『社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～』(2013)
- ・ 沈潔『中国の福祉改革は何を目指そうとしているのか-社会主義・資本主義-の調和』ミネルヴァ書房(2014)
- ・ 沈潔、澤田ゆかり編著『ポスト改革期の中国社会保障はどうなるのか-選別主義から普遍主義への転換の中で-』ミネルヴァ書房(2016)
- ・ 杉万俊夫「社会構成主義と心理学-『内なる心』の観念を超えて」下山晴彦編著『心理学論の新しいかたち』誠信書房(2005)、pp.66-84
- ・ 厨子直之「ナレッジワーカーのソーシャル・サポート・職務満足・組織コミットメント・組織市民行動・離職に関する実証分析」『研究年報』和歌山大学経済学会、第14号(2010)、pp.469-486
- ・ 關本翌子、亀岡正二、富樫千秋「看護師を対象としたレジリエンス 研究の動向」『日看管会誌』第17巻第2号、日本看護管理学会(2013)、pp.126-135
- ・ 鈴木英子、叶谷由佳、堀井さやか、高田絵里子、北岡(東口)和代、佐藤千史「日本版 MBI (Maslach Burnout Inventory) の実用性の検討-回収率、有効回答率、回収数における無効回答率に焦点をあてて-」『日本看護研究会雑誌』第7巻第4号、日本看護研究学会(2004)、pp.85-90
- ・ 総務省自治行政局「自治体戦略 2040 構想研究会(第3回)事務局提出資料」総務省(2017)
- ・ 蘇珍伊、岡田進一、白澤政和「特別養護老人ホームにおける介護職員の仕事の有能感に関連する要因-利用者との関係と職場内の人間関係に焦点をあてて-」『社会福祉学』第47巻第4号、日本社会福祉学会(2006)、pp.124-135
- ・ 田尾雅夫「ヒューマン・サービスにおけるバーンアウトの理論と測定」『京都府立大学学術報告

人文』第 39 卷、京都府立大学(1987)、pp.99-112

- ・ 田尾雅夫「バーンアウト-ヒューマン・サービス従事者における組織ストレス-」『社会心理学研究』第 4 卷 2 号、日本社会心理学会(1989)、pp.91-97
- ・ 田尾雅夫、久保真人『バーンアウトの理論と実践-心理的アプローチ』誠信書房(1996)
- ・ 高橋紘士編『地域包括ケアシステム』オーム社 (2002)
- ・ 高橋潔「リーダーシップの本質」『国民経済雑誌』第 205 号、神戸大学経済経営学会(2012)、pp.51-66
- ・ 高橋量一「ESR モデル再考」『亜細亜大学経営論集』第 40 号、亜細亜大学商学部(2005)、pp.3-39
- ・ 竹内規彦「リーダーシップ研究におけるメソ・アプローチ:レビュー及び統合」『組織科学』第 43 卷第 2 号、組織学会(2009)、pp.67-71
- ・ 竹林浩志「リーダーシップ研究の発展と課題」『大阪明浄大学紀要』第 4 号、大阪明浄大学(2004)
- ・ 舘岡康雄『利他性の経済学 支援が必然となる時代へ』新曜社(2006)
- ・ 田中宏二「ソーシャルサポート」日本健康心理学会編『健康心理学辞典』実務教育出版(1997)、p.191
- ・ 田中滋監修『地域包括ケアサクセスガイド』メディカ出版(2004)
- ・ 田中滋「超高齢社会における地域の力:地域包括ケアシステム構築にあたって」日本医師会医療政策会議編『医療政策会議報告書 高齢化社会における経済的・文化的・医学的パラダイムシフト』、日本医師会医療政策会議(2016)、pp.13-20
- ・ 地域包括ケア研究会「地域包括ケア研究会報告書～今後の検討のための論点整理～」平成 20 年度老人保健健康増進等事業、地域包括ケア研究会(2008)
- ・ 辻哲夫総監修他『超高齢社会 第 3 弾 日本のシナリオ』時評社(2015)
- ・ 辻哲夫「特集 元年創刊の本誌と識者が過去から展望する未来 平成時代の医療・介護」『日経ヘルスケア』353 号、日経 BP 社(2019)、pp.32-49

- ・ 筒井孝子「地域包括ケアの基本的考え方-integrated care の視点と構築のための戦略-」地域包括ケア研究会無料シンポジウム資料 (2013)
- ・ 筒井孝子『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略 integrated care の理論とその応用』中央法規(2014)
- ・ 堤明純、堤要、折口秀樹、高木陽一、詫間衆三、萱場一則、五十嵐正鉦「地域住民を対象とした認知的社会的支援尺度の開発」『日本公衛誌』第 41 巻、第 10 号、日本公衆衛生学会(1994)、pp965-974
- ・ 堤明純、萱場一則、石川鎮清、刈屋七臣、松尾仁司、詫間衆三「Jichii Medical School ソーシャルサポートスケール(JMS-SSSS):改訂と妥当性・信頼性の検討」『日本公衛誌』第 47 巻、第 10 号、日本公衆衛生学会(2000)pp.886-878
- ・ 寺本義也『ネットワークパワー 解釈と構造』NTT 出版(1990)
- ・ 内閣府「平成 30 年度版高齢社会白書(全体版)」
<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/html/zenbun/index.html> 2019 年 7 月 30 日アクセス
- ・ 中根千枝『タテ社会の人間関係』講談社(1967)
- ・ 長内綾、古川真人「レジリエンスと日常的ネガティブライフイベントとの関連」『昭和女子大学生活心理研究所紀要』第 7 号、昭和女子大学生生活心理研究所(2004)、pp.28-38
- ・ 西村周三監修・国立社会保障・人口問題研究所編『地域包括ケアシステム「住み慣れた地域で老いる」社会をめざして』慶応義塾大学出版会 (2013)
- ・ 西之坊穂、古田克利「日本版フォローシップの構成要素の探索的研究と個人特性間の差の検討」『経営教育研究』第 16 号、日本経営教育学会(2013)、pp.65-75
- ・ 日経デジタルヘルス「デジタルヘルス用語」日経 BP 社
<http://tech.nikkeibp.co.jp/dm/atcl/word/15/327920/012600016/?ST=helth> 2018 年 5 月 21 日アクセス
- ・ 日本貿易振興機構「日本高齢者産業調査報告書」日本貿易振興機構(2013)

- ・ 沼尾波子「地域包括ケアシステム構築と行政の役割」『月刊福祉』第 98 巻第 4 号、全国社会福祉協議会(2015)、pp.30-45
- ・ 野口裕二「高齢者のソーシャルサポート:その概念と測定」『社会老年学』第 34 巻、東京都老人総合研究所(1991)、pp.37-48
- ・ 橋本剛『ストレスと対人関係』ナカニシヤ出版(2005)
- ・ 東口和代、森河裕子、三浦克之、西条旨子、田畑正司、由田克士、相良多喜子、中川秀昭「日本版 MBI (Maslach Burnout Inventory) の作成と因子構造の検討」『日本衛生学雑誌』第 53 巻、日本衛生学会(1998)、pp.447-455
- ・ 久田満「ソーシャル・サポート研究の動向と今後の課題」『看護研究』Vol.20 No.2、(1987)、pp.2-11
- ・ 久田満、千田茂博、箕口雅博「学生用ソーシャル・サポート尺度」(1989) 堀洋道監修、松井豊編『心理的測定尺度Ⅲ-心の健康をはかる(適応・臨床)-』サイエンス社(2001)、pp.44-52
- ・ 平野真理「レジリエンスの資質的要因・獲得的要因の分類の試み-二次元レジリエンス要因尺度(BRS)の作成」『パーソナリティ研究』第 19 巻第 2 号、日本パーソナリティ心理学会(2010)、pp.94-106
- ・ 平野真里『レジリエンスは身につけられるか-個人差に応じた心のサポートのために-』東京大学出版会(2015)
- ・ 平野真里、綾城初穂、能登眸、今泉加奈江「投影法から見るレジリエンスの多様性-回復への志向性という観点」『質的心理学研究』第 17 号、日本質的心理学会(2018)、pp.43-64
- ・ 平野真里「心のレジリエンス」奈良由美子、稲村哲也編著『レジリエンスの諸相-人類史的視点からの挑戦-』放送大学教育振興会(2018)、pp.230-246
- ・ 淵上克義「リーダーシップ研究の動向と課題」『組織科学』第 43 巻第 2 号、組織学会(2009)、pp.4-15
- ・ 日野健太「関係とリーダーシップの有効性」『早稲田商学』第 393 号、早稲田大学大学院商学研究科(2002)、pp.97-130

- ・ 日野健太『リーダーシップとフォロワー・アプローチ』文眞堂(2010)
- ・ 古屋肇子、谷冬彦「看護師のバーンアウト生起から離職願望に至るプロセスモデルの検討」
『日本看護科学会誌』第 28 号第 2 号、日本看護科学学会(2008)、pp.55-61
- ・ 星井進介「社会構成主義が Wick 組織理論に与えた影響」『現代社会文化研究』第 54 号、新潟大学大学院現代社会文化研究科(2012)、pp.121-138
- ・ 堀田聡子「労働政策研究報告書 No.167 オランダの地域包括ケア提供体制の充実と担い手確保に向けてー」労働政策研究・研修機構(2014)
- ・ 松井知子、市川佳居編『職場ではぐくむレジリエンス』金剛出版(2019)
- ・ 松井豊、浦光博編著『人を支える心の科学』誠信書房(1998)
- ・ 松嶋秀明「書評特集:レジリエンス『レジリエンス』ってなんでしょう?」『質的心理学研究』第 17 号、に本質的心理学会(2018)、pp.226-228
- ・ 松田晋哉『医療の何が問題なのか』勁草書房(2013)
- ・ 松原敏浩「リーダーシップの文献展望-8-Graen のリーダー・メンバー交換モデル(LMX)」『経営管理研究所紀要』第 5 号、愛知学院大学経営管理研究所(1998)、pp.113-137
- ・ 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング「地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業報告書〈地域包括ケア研究会〉地域包括ケアシステムと地域マネジメント」平成 27 年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康等事業、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(2016)
- ・ 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング「地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業報告書 地域包括ケア研究会報告書-2040 年に向けた挑戦-」平成 28 年度老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康等事業、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(2017)
- ・ 宮崎徳子監修、豊島泰子、立石宏昭編著『地域包括ケアシステムのすすめーこれからの保険・医療・福祉』ミネルヴァ書房(2016)
- ・ 宗像恒治、仲尾唯治、藤田和夫、諏訪茂樹「都市住民のストレスと精神的健康度」『精神衛生

- 研究』第 32 卷、国立精神・神経センター精神保健研究所(1986)、pp.47-68
- ・ 森慶輔、三浦香苗「職場における短縮版ソーシャルサポート尺度の開発と信頼性・妥当性の検討-公立中学校教員への調査を基に-」『昭和女子大学生生活心理研究所紀要』第 9 卷、昭和女子大学生生活心理研究所(2006)、pp.74-88
 - ・ 文部科学省ホームページ「国家資格の概要について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/014/shiryo/07012608/003.htm
 2019 年 5 月 3 日アクセス
 - ・ 行實志都子、八重田淳、若林功「地域生活を支援する福祉専門職の医療と介護の連携における現状と課題」『神奈川県立保健福祉大学誌』第 14 卷第1号、神奈川県立保健福祉大学(2017)、pp.3-13
 - ・ 横浜市緑区「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた緑区行動指針」横浜市緑区役所 高齢・障害支援課(2018)
 - ・ 渡辺昇「経営品質向上メカニズムの研究-経営品質向上活動と組織成熟度・組織改革および組織成果の関係性-」早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士論文(2008)
 - ・ 渡辺昇「日中経営品質比較」2013 年 11 月 30 日日本経営品質学会講演資料、(2013)
 - ・ 渡辺昇「武蔵野学院大学大学院国際企業・経営特殊講義テキスト」(2017)
 - ・ Antonucci, T.C., Lansford, J.E., and Ajrouch, K.J. “Social Support” Fink, George, editor-in-Chief, *Encyclopedia of Stress. (2nd Edition.)* Elsevier Inc(2007) pp479-482. 邦訳、尾久征三訳「ソーシャルサポート(社会的支援)」pp.1819-1822 ストレス百科事典翻訳刊行委員会編『ストレス百科事典』第 3 卷、丸善出版株式会社(2010)
 - ・ Blazey, Mark. L. *Insight to Performance Excellent 2017-2018*. ASQ Quality Press(2017)
 - ・ Barnard, Chester. I. *THE FUNCTIONS OF THE EXECUTIVE*, Harvard University Press(1935). 邦訳、C.I.バーナード／山本安次郎、田杉競、飯野春樹訳『新訳 経営者の役割』ダイヤモンド社(1968)
 - ・ Berger, Peter., and Luckmann Thomas, 1977, *The Social Construction of Reality*. 邦訳、ピ

- ーター・バーガー、トーマス・ルックマン／山口節郎訳『現実の社会的構成』新曜社(2003)
- ・ Blazey, Mark. L. *Insight to Performance Excellent 2017-2018*. ASQ Quality Press(2017)
 - ・ Burr, Vivien. *An Introduction to Social Constructionism*, Routledge(1995) . 邦訳、ヴィヴィアン・バー／田中一彦訳『社会的構築主義への招待』川島書店(1997)
 - ・ Caplan, Gerald. *Support Systems and Community Mental Health*, Behavioral Publications(1974). 邦訳、ジェラルド・カプラン／近藤喬一訳『地域ぐるみの精神衛生』星和書店(1979)
 - ・ Cassel, J. “Psychological processes and “stress”: theoretical formulations” *International Journal of Health Service* 4(1974) pp.471-482
 - ・ Cobb, S. “Social support as a mediator of life stress,” *Psychosomatic Medicine* 38(1976) pp.300-314
 - ・ Garvin, David. A. “How the Baldrige Award Really Works” *Harvard Business Review*, November-December, (1991) pp.80-93 . 邦訳、デビッド・A・ガービン／佐藤修訳「ボルドリッジ賞はアメリカ産業を再生するか」『DIAMOND ハーバード・ビジネスレビュー』2-3月号(1992)、pp.27-43
 - ・ Gergen, Kenneth. J. *An Invitation to Social Construction*, Sage Publications(1999) . 邦訳、ケネス・J・ガーゲン／東村和子訳『あなたへの社会構成主義』ナカニシヤ出版(2004)
 - ・ Gergen, Kenneth. J., and Gergen, Mary. *Social construction: Entering the Dialogue*, Taos Institute Publications(2004) . 邦訳、ケネス・J・ガーゲン、メアリー・ガーゲン／伊藤守監訳、二宮美樹翻訳統括『現実はいつも対話から生まれる 社会構成主義入門』ディスカバー・トゥエンティワン(2018)
 - ・ Gergen, Kenneth. J., and Hersted, Lone. *RELATIONAL LEADING Practices for Dialogically Based Collaboration*, Taos Institute Publications(2013) . 邦訳、ケネス・J・ガーゲン、ロネ・ヒエストウッド、伊藤学監訳・二宮美樹訳『ダイアログ・マネジメント』ディスカヴァー・トゥエンティワン(2018)

ワン(2015)

- ・ Graen, George. B., and Uhl-Bien, Mary. “Relationship-Based Approach to Leadership: Development of Leader-Member Exchange(LMX) Theory of Leadership over 25 Years: Applying a Multi-Level Multi-Domani Perspective” *Leadership Quarterly*,6:2 (1995) pp.219-247
- ・ Hersey, Paul., Blanchard, Kenneth. H., and Johnson, Dewey. E. *Management of Organizational Behavior*, PRENTICE HALL(1996) . 邦訳、P・ハーシィ、K・Hブ・ランチャー、D・E・ジョンソン／山本成二、山本あずさ訳『入門から応用へ 行動科学の展開【新版】- 人的資源の活用』生産性出版(2000)
- ・ Ihara Hiroshi, Ogata hiroyuki, Inuzuka Aya, Ohta Noriko, Nagai Toshiro, and Mizuno Motoki. “Development and Psychometric Validation of the Resilience Scale for Nurses ” *The Japanese Society of General Hospital Psychiatry* , vol.22, no.33(2010)
- ・ Kim, Daniel, H., Anderson, Virginia. *SYSTEMS ARCHETYPE BASICS WORKOUT*, Pegasus Communications, Inc(1998).邦訳、ダニエル・キム、バージニア・アンダーソン／ニューチャーネットワークス監訳、宮川雅明、川瀬誠訳『システム・シンキングトレーニング-持続的成長を可能にする組織改革のための8つの問題解決思考法-』日本能率協会マネジメントセンター(2002)
- ・ Kuhn, Thomas. *THE STRUCTURE OF SCIENTIFIC REVOLUTIONS*, The University of Chicago Press(1962). 邦訳、トーマス・クーン／中山茂訳『科学革命の構造』みすず書房(1971)
- ・ Leutz, W. N. “Five Laws for Integrating Medical and Social Services: Lessons from the United States and the United Kingdom ” *Milbank Quarterly*, 77(1) (1999)
- ・ Robbins, Stephen. P. *Essentials of Organizational Behavior*, Pearson Educations, Inc(2005). 邦訳、スティーブン・P・ロビンズ／高木晴夫訳『組織行動のマネジメント-入門から実践へ』ダイヤモンド社(2009)

- ・ Rosen, R., Mountford, J., Lewis, G., Lewis, R., Shand, J., and Shaw, S. *Integration in action: four international case studies*, Nuffield Trust (2011)
- ・ Russell, D. Almaier, E., and Velzen. D. V. “Job-rotated stress, social support, and burnout among classroom teachers” *Journal of Applied Psychology*, vol.72, No.2, the American Psychology Association, Inc. (1987), pp.269-274
- ・ Scharmer, Otto. C. *THEORY U Leading from the Future as it Emerges(2nd edition)*, Organization Learning(2016). 邦訳、オットー・C・シャーマー／中土井僚、由佐美加子訳『U理論 第二版 過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術』英治出版(2018)
- ・ Senge, Peter, Scharmer, Otto. C., Jaworski, Joseph., and Flowers, Betty, Sue. *Presence*, Crown Business(2004). 邦訳、ピーター・センゲ、オットー・C・シャーマー、ジョセフ・ジャウオースキー、ベティ・スー・フラワーズ／野中郁次郎監訳、高遠裕子訳『出現する未来』講談社(2006)
- ・ Senge, Peter. M. *The Fifth Discipline, The Art & Practice of the Learning Organization*, Doubleday Business(1990) . 邦訳、ピーター・M・センゲ／枝廣淳子、小田理一郎、中小路佳代子訳『学習する組織』英治出版(2011)
- ・ Tisseron, Serge. *La Résilience*, Universitaires de France(2007) . 邦訳、セルジュ・ティスロン／阿部又一郎訳『レジリエンス こころの回復とはなにか』白水社(2016)

謝 辞

本論文は、多くの方々のご指導とご協力を賜りました。武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科渡辺昇教授には「地域包括ケアシステム」という先行研究が少ない研究領域でありながらも、研究の道筋を照らしていただき、終始暖かい激励とご指導いただき、心より感謝申し上げます。また、佐々木隆教授には博士課程への進学から研究全般にわたるご支援、ご指導を賜りました。

日本大学商学部経営学科の平松庸一教授には、本論文の骨子をなす多変量解析について、基本的設計、分析作業プロセス、考察の妥当性について適切にご指導、ご支援、アドバイスをいただきました。この指導なしに、本研究を成し遂げることはできませんでした。心より感謝申し上げます。

さらに、本研究は定量的実証研究と定性的実証研究を行なったものでありますが、調査に協力していただいた5病院の経営者のみなさま、ならびにお忙しい中、ご回答いただいた医療専門職のみなさまに感謝いたします。また、定性的実証研究を快諾していただきました社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院神野正博理事長にも心より感謝申し上げます。みなさまのご協力がなければ実を結ぶことはできませんでした。

最後に、業務と併行し本研究に取り組むことを快諾してくれた医療法人社団元気会横浜病院の北島明佳理事長、箱崎幸也院長、職員各位、そしてヒューマンリソースソリューション室 要田麻美主任には日頃の業務に加え、研究への協力に感謝します。最後に、温かく見守ってくれた友人、いつも支援してくれた家族には改めて感謝いたします。

2019年12月

北島佳苗